

事業所名

グループホーム あなたのふるさと萌

(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付

平成19年12月11日

評価機関名

㈱東京リーガルマインド

(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員

A:現職 社会福祉法人生活指導員
資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー
B:現職 介護支援専門員
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、介護老人福祉施設(9年)

自主評価結果を見る

(事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る

(評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	○職員は、誠実をモットーとして入居者に接しており、入居者の尊厳を大切に して個性を生かし、ここで暮らして良かったと思える生活を目指している。 ○ゆとりのある明るい空間の中で、自宅と変わらない心穏やかな安心な暮らしを 目指している。 ○民生委員・老人クラブ会長・自治会長を始め、地域の人的資源を活用し、地域と 一体になったホームを目指している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	○コミュニケーションを大切にしており、ホームが開催する萌祭、カラオケ大会 等で入居者・家族・地域の方と交流して親睦を図り、入居者が落ち着いて暮らせ るように取り組んでいる。 ○共用空間には、昔懐かしい家電や生活用具が置いてある。それらに触れること で昔の事を思い出し、入居者が心落ち着いた毎日を送れるように努力している。 ○職員は、常に笑顔で入居者と接しており、呼びかけ・言葉使いは丁寧である。入 居者の表情も明るく、入居者の人格を尊重した共同生活を進めている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のベースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

○ホームは、倉敷の中心市街地にほど近い水田地帯の中にあり、古くからの農家が諸所
に見られ、背後には小高い山が控えている。広々とした、ゆったりとした環境であり、
また、直ぐ近くには幹線道路が走っており、交通便利な環境でもある。

○2ユニットのホームで、1階と2階に各ユニットがあり、お互いが機能的に結びつ
き、それぞれが特徴のあるユニットとなっている。共用空間を広くとっており、2階
には入居者が自由に活動できる多目的ホールがある。

○全館バリアフリーとなっており、トイレ・リビング等には床暖房を施し、エレベータ
-も設置している。階段は、幅を150センチ取り、緊急時の担架での移動もスムーズに
できる。居室は、全室にスプリングカーを取り付け、安全には充分留意している。

○先に開設されたグループホームがすぐ近くにあり、その経験・ノウハウを生かし、
入居者の尊厳を大切に、一人ひとりの個性を生かした家庭的な日常生活の実現に
向けて支援している。当ホームは、まだ開設して間が無いが、門には幟を立て、代表者
自らが作詞したCDを配布する等、地域啓発に力を置き、地域に溶け込む活動を行って
いる。

○協力医療機関として、倉敷市内の総合病院を数箇所確保している。平素の往・受診は
もとより、緊急時にはいつでも対応してもらえる。入院時の受け入れ体制もあり、入
居者・家族は安心してホーム生活を送れる。

○敷地はとても広く、代表者自らがトラクターで畑を耕し、野菜等を植えて入居者が畑
仕事をする等、広い敷地を有効に活用している。また、屋外にはトイレを設置し、戸外
での活動を充実させている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

まだ、開設して6ヶ月目だが、適切な認知症介護が行われており、要改善として指摘す
べき点は見当たらない。

○職員の福利厚生を図るため、法人内に託児所の開設プランもあり、職員の安定はよ
り良い介護に繋がる。運営推進会議を通じて、今後とも地域との連帯を図り、地域に必
要とされるグループホームになっていかれることを期待する。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医 療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	○入居者個々の特性を踏まえ、入居者の過ごした人生・経験を把握して尊 重し、自身の持っている潜在能力や意欲を楽しみながら発揮してもらい、 メリハリのある生活が出来るように取り組んでいる。 ○個人の記録は、鍵の掛かるロッカーに保管している。ホーム誌に入居 者の顔写真を掲載する場合には、本人・家族の了解を得るようしてプ ライバシーの保護に配慮している。面会簿は、個人ごとに綴じられてい る。 ○ホームに来る学生を始め、ボランティアの方にもホーム内の個人的な 事項については守秘義務を徹底してお願している。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	○家族アンケートを実施し、入居者・家族が望む事を把握して介護計画 に反映し、サービス向上に生かしていこうと計画している。 ○採用後、1ヶ月以内に採用時研修を行い、職員の資質向上のための研修 は年2回予定している。職員を基準より多く採用してゆとりを持ち、介 護に充分手が掛けられるように取り組んでいる。 ○職員に安定して勤務してもらうため、法人内に託児所を設置すること を計画している。 ○些細な事も、「事故報告書」「ヒヤリハット報告書」に記録してその 原因を明らかにし、対応策、処置を検討して再発防止に役立てている。 ベッドからの転落には特に留意している。		